



おのゆきのぶ
小野 幸宣
(創政会)

●当市のインフラクライシスの管理状況は ●前沢、衣川診療所の収支状況は

質問 当市の公共施設の現状と管理状況について伺う。

市長 台帳はデータ化を図っている。平成23年度学校建替えや修繕費工事で27億9860万円である。将来大規模改修や維持経費や更新経費負担が予想される。橋梁は国の方針で長寿命化修繕計画(6割補助)により補修費用の縮減平準化を図る。道路は長寿命化修繕計画で管理する。

質問 地域民間事業者労働条件調査について伺う。また平成23年度市職員一人当りの退職金はどれくらいか？

市長 労働条件調査の集計・分析を行っており、3月中の完了を目指している。平成23年度市職員1人当たりの退職金は平均2200万円である。退職金の引き下げは4月から段階的に、国と同様とする。

質問 前沢、衣川診療所の収支状況について伺う。

市長 前沢診療所は一般会計の繰入金2億円のうち、1億2000万円、



経営改善が望まれる衣川診療所

■用語解説

【インフラクライシス】国や自治体がこれまで整備・維持してきた道路、橋梁、水道といった普段当然のように利用されている、巨額の社会インフラが様々な要因から今後このままの質を維持できるかどうか不透明になってきている。この問題を「インフラクライシス」と呼ぶ。

衣川診療所は一般会計繰入金1億4000万円で、1億円がそれぞれ実質赤字である。両診療所の収支改善策は、市立診療所のあり方、役割、経営の健全化等、(仮称)奥州市立病院・診療所改革プランの策定をし、見直す。

質問 医師1人に対する職員数は衣川診療所は21人に対して、前沢診療所の49人は多すぎるのではないか。

市長 経営改善をより強く実行すべきと考える。

質問 両診療所の無床化についての所見を伺う。

市長 検討されるべき課題である。



ふじたよし のり
藤田 慶則
(創政会)

●盛りあげよう！「希望郷いわて国体」 健やかに 未来へ羽ばたけ 奥州っ子

質問 平成28年開催の岩手国体において、奥州市の方針を伺う。

市長 7種目を開催する奥州市として、市民スポーツの振興を図り、多様な交流を通じた「地域の個性が光り輝く自治と協働のまち奥州市」の実現を目指す。特に平成25年度から、国体準備室を国体推進室として、市長部に移管し体制強化を図る。

質問 現在の取り組みと課題について伺う。

教育委員長 奥州市準備委員会の下部組織として、専門委員会を立ち上げ、それぞれの専門的見地から検討を行っている。今後の課題は、市民総参加のもと、一丸となって大会を盛り上げる市民運動の取り組みと、駐車場・宿泊場所の確保などが掲げられており、今後幅広く検討する。

質問 岩手県の子どもの肥満傾向児の出現率は、男女とも全ての年齢で全国平均を上回り、とくにも男子は5歳・16歳が、女子では7



「2012ぎふ清流国体」 カヌー競技

歳・15歳・16歳の出現率がいずれも全国1位と顕著であるが、奥州市の現状を伺う。

教育委員長 平成24年度の岩手県の児童生徒に係る健康診断の集計によると、市内で肥満と診断された児童生徒の割合は、小学生は全体の11・2%、県平均より0・1ポイント高い。中学生では、全体の11・3%となっており、県平均より0・5ポイント低い。肥満の要因として、日頃の運動不足、間食の取り過ぎ、不規則な食生活による生活習慣などが考えられる。